

裏切り者の名を受けて（全てを捨ててはいません）

校長 皆川 渉

令和6年を迎えました、今年もよろしくお願いいたします。旧年中は保護者の皆様、地域の皆様には、様々な面で本校の教育活動へのご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、私が学校経営を進める上で大切にしている一つに、『コミュニケーションをとる』ことがあります。コミュニケーションはお互いを知ることにつながります。これができなければ、人間同士の良い関係は築けません。自分自身を振り返ってみたとき、40年以上前の話ですが、忘れることができない出来事があります。

中学校3年の夏、私はバスケットボール部を引退した後、合唱部に入るように音楽担当の先生から誘われました。当時、私が通っていた中学校では、運動部の活動が終了した男子が合唱部に入り、男女混声合唱として市や県の音楽会に出場することが行われていたからです。

練習の際に、高校で合唱部に所属していたOB（仮称Aさん）が助言にきてくれていました。私は、熱心に助言してくださるAさんのことをとても尊敬していました。

半年後、私はAさんと同じ高校に入学し、美術部に入りました。それを知ったAさんから「なぜ合唱部に入らなかったんだ。」と問い詰められました。私は、Aさんと高校で合唱部に入部するという趣旨の話を一度も交わしていなかったため、

「どの部活動に入ろうと、それは個人の自由ではありませんか」と反論しました。すると、Aさんから「信じていたのに、裏切られた」という言葉を浴びせられました。Aさんには、大変お世話になったと感じていましたが、それ以来、疎遠となってしまいました。中学生のうちに、Aさんに対して、『高校で合唱を続ける気持ちはない』という気持ちを伝えられていれば、私を信じていたAさんを「裏切られた」という気持ちにさせずに済んだかもしれません。コミュニケーションがとれなかったことが招いた失敗談のひとつです。



数年前に耳にした、女優の芦田愛菜さんのコメントを聞いたとき、コミュニケーションをとる上で、大切にすべき視点を感じました。

（以下、主演映画の完成報告イベントで「信じる」ことについて聞かれた芦田愛菜さんのコメントより抜粋させていただきます。）

芦田さんは、『人のことを信じる』という言葉の意味を、その人自身を信じているのではなく、『自分が理想とする、その人の人物像みたいなものに期待してしまっていること』と感じている、と話していました。その上で、『裏切られた』とか、『期待していたのに』とか言うけれど、それは『その人が裏切った』というわけではなくて、『その人の見えなかった部分が見えただけ』であって、その見えなかった部分が見えたときに、『それもその人なんだ』と受け止められる『揺るがない自分がある』というのが『信じられることなのかな』と思っています、と述べていました。

Aさんとのことは、今さらどうしようもありません。せめて、人生の中で縁のできた人に対して、その人の見えなかった部分が見えた時に、『それもその人なんだ』と受け止めて、陰日向なく必要なコミュニケーションをとれる自分であり続けたいと思います。

でも『揺るがない自分』でいられるかどうか…。インタビュー当時は現役高校生だった芦田さんの言葉に対峙して、まだまだ人としての修行が必要と感じる私です。

《なかさとっ子 Column》

【4年 いのちの授業】12月6日(水)



【7年ガスバーナー実習】12月12日(火)



【地域合同防災訓練】12月9日(土)



【Karate Do! [空手]】12月15日(金)

